

## 第50回

クレタ島／ギリシャ

Crete Greece

## 「偽り者」の島では食べるな！

—— 神話と歴史の島にもマック

リクルート=スタディサブリ講師 村山 秀太郎

### 初めてのクレタ入り

二十数年前、入試直前の生徒を激励するつもりで「第一志望に合格したら世界のどこでも好きなところへ連れて行ってあげるから頑張れ」と口を滑らせたところ、数日後ある女子高生が「第一志望校に受かったので約束を守ってください！ 行き先はクレタ島」と言ってきた。困ったな、と思ったが、「じゃあ、合格者10人を集め、親の承諾書を書面で提出、費用は各自負担であればOK……」ということで、大学生となった男女を引率し、私自身初めてのクレタ島へ向かった。

アエロフロート機でモスクワ経由の旅。モスクワ空港のトランジットホテルでは、宿泊階ごとにシャッターで封鎖され、自由に外に出られなくなった。彼らは不安そうな表情を見せた。翌日、アテネ経由でクレタ入り。イラクリオンのホテルにチェックインした後、早速バスでク

ノッソス遺跡へ行く。入り口に座している銅像の人物確認テスト、正解は「この遺跡を発掘したことで知られる」エヴァンズ卿だ。そして、同遺跡には、高校世

界史の教科書の表記どおり、城壁がないということも確認した。写実的な海洋生物の壁画が本当に多数あった。

### ヨーロッパの語源

ヘシオドスの『神統記』によれば、神々の王クロノスの妻レアが末っ子ゼウスを産んだのがクレタ島とのこと。2024年にイスラエルがヒズボラ掃討を掲げ、レバノン各地を攻撃したが、そのターゲットの1つがティルス(現在の名前はスール)の町だった。ギリシア神話によると、美しく成長したティルスの王女エウローペーに一目ぼれしたゼウスは、自身を白い牡牛に姿を変え、侍女と花摘みをしている彼女に近づき誘惑し誘拐した。背中に乗せてエウローペーを連れ回した範囲が“ヨーロッパ”と呼ばれるようになった。そしてクレタ島に戻ったゼウスは人のかたちに戻り、エウローペーとの間にミーノースほか数人の子が産まれた。ミーノースがクレタ島で成長し王となったので、クレタ文明はミーノース文明とも呼ばれる。

クレタは旧約聖書に出てくる「カフトル」であると一般に考えられているが、それは件の「ガザ地区」を建設した「海の民」フィリスティア人(ペリシテ人=パレスチナの語源)がカナーンに移住する前の土地である。クレタ文明は前1400年頃に消滅した。時を経て、クレタは地中海の商船を餌食とする海賊の拠点や隠れ場所となった。

